

第4回 「なぜ戦争を止められなかったのか」

講師／遠藤宮子

まとめられなかったので「9条+24条の会」での文章に代えさせていただきます。

生活綴方を指導していた先生が突然逮捕されました。

赤ペン一本で思想犯。当時、思想犯は「火つけ、泥棒、人殺し」より重い罪で「アカ」「左翼」などと呼び悪人にされました。敗戦により出獄、その姿は骨に皮膚がつき、目玉がギョロリと光、「生きている骸骨」、餓死寸前でした。

女学校の学徒動員先の横須賀海軍工廠造機部の教育班では、「科学のついた本」を読んでいた物理学校生が殴られ血だらけになって吹っ飛びました。

こうした光景はたまにはではなく、毎日なのでいたたまれなくなり職場替えを申し込んだ人もいました。学徒動員前の日常生活でも、外国の民謡を口ずさむと「敵国の歌！」と注意されました。おかしいと思ってもそれを言えば、いつ、どこで、誰が、どこに密告するかわかりません。周囲は「スパイ」だらけ。そんな時、どこから誰からともなく伝わった言葉、「壁に耳あり」「障子に目あり」、まさに監視社会でした。監視社会の恐怖・萎縮・疑問は、長引くとそれが「普通の社会」と信じさせるようになります。たいそう恐ろしい事です。

ストップ共謀罪。憲法違反の共謀罪に、学者・法曹界・言論界・各種団体など自主的に集会や宣伝、署名、声明などを出しております。

結成 11 年目の本会は、多くの他団体と手をつなぎ行動をとともにする年にし、「平和・自由・平等」を守り、引き継いでいきたいと切に思っております。これからが正念場。：同会機関紙（17/4/24）

12月8日は戦争が始まった日である。当時、私は少額6年生で、真珠湾攻撃による「勝ち戦」だと興奮したことを覚えている。戦争は突然起こるのではない。教科書の「サイタ、サイタ」が「ススメ、ススメ」に変わったり、歴史では「神の世」の表現が出されたりした。少しずつ事前の戦争参画準備がなされていた。カルタ造りでは「翩翩（へんぽん）と南の空に日の御旗」という絵札を描かされたりしていた。

そのころ、2年前には既に東南アジアには戦争準備がなされていた。そして、中国、東南アジアの島々へ赤紙一枚で召集されて行かされ、働き手のいなくなった国内では学生が向上に駆り出された。旧制高等女学校3年で横須賀に送られ、何を作っているかもわからないまま働かされた。若者たちが乗る戦闘機の部品を作っていたことを後で知って愕然とした。「戦争さえなかったら父は死ななかつた、母は苦しまなかつた」という中学生の作文を読むにつけ悔やまれる。

女性は、親に従い夫に従い、老いては子に従いと、経済力もなく離婚の自由もなく、まさに「女三界に家無し」だった。平和憲法24条が出来てから男女平等、選挙権、結婚・離婚の自由、財産権、貯金の名義などが認められた。

最近、共同提案したり、「NGO ICAN（アイキャン）」がノーベル賞をもらったりなどの動きが出てきている。一人ひとりが声を出そう。黙っていても「戦争」が進む。平和無くして男女平等はない。この会が結成されて11年が経った。手を取り合って、次世代のために残せるのは平和しかない事を確認し合おう。

「9+24条」の会 結成11年目にあたり 総会パンフレットより